

Concert
KORG DIGITAL PIANO

取扱説明書 **C-15S/C-25S**

KORG

目次

スタンドの組み立て方	2
各部の名称	3
弾いてみましょう	5
音色を変えて弾いてみましょう	6
音色にサラウンドをかけてみましょう (C-25S)	6
二つの音色を同時に出してみましょう	7
ペダルを使ってみましょう	8
トランスポート機能	10
ピッチコントロール	12
MIDIを使って	13
MIDIモードの設定	13
MIDIマルチ機能を活用しましょう	18
MIDIインプリメンテーション	20
故障とお思いになる前に	22
仕様	23

ご使用になるまえに

■使用する場所について

次のような場所でご使用になりますと、故障の原因となりますのでご注意ください。

- 直射日光の当たる場所
- 温度や湿度が非常に高い場所や低い場所
- 砂やホコリの多い場所

■電源について

- 電源コードのプラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込んでお使いください。お買い上げになった製品は国内仕様ですので、100V以外の電源コンセントは絶対に接続しないでください。
- 電源のタコ足配線は、雑音が出たり音質が悪くなる原因となることがありますので、注意してください。

■取り扱いはやさしく

- スイッチやスライダーつまみなどに必要以上の力を加えたりすると、故障の原因となりますので、取り扱いには十分にご注意ください。
- キーカバー上に必要以上の力を加えたり、乱暴に開閉しないでください。故障の原因となることがあります。(C-25S)

■お手入れ

- 外装のお手入れのときには、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジン、シンナー系の溶剤や、強燃性のポリッシャーなどは絶対に使用しないでください。

■異物混入のご注意

- 本体の上には、コップ・花瓶など液体の入ったものは絶対に置かないでください。本体に液体が入ると故障するばかりか火災・感電などの恐れもあります。
- 本体の内部には(鍵盤と鍵盤のすきまなどから)ヘアピン・硬貨などの金属物が入らないようにご注意ください。上記の場合は、本体のパワースイッチをOFFにし、AC電源コードをコンセントより抜いてから、最寄りの営業所、または販売店にご連絡ください。

■保証書の手続き

- 保証書は、購入時点での手続きが行われていない場合、無効となることがあります。必ずお買い上げのお店で手続きを行なったうえで、大切に保管してください。

■取り扱い説明書は大切に

- この取り扱い説明書はお読みになったあとも大切に保管してください。

スタンドの組み立て方

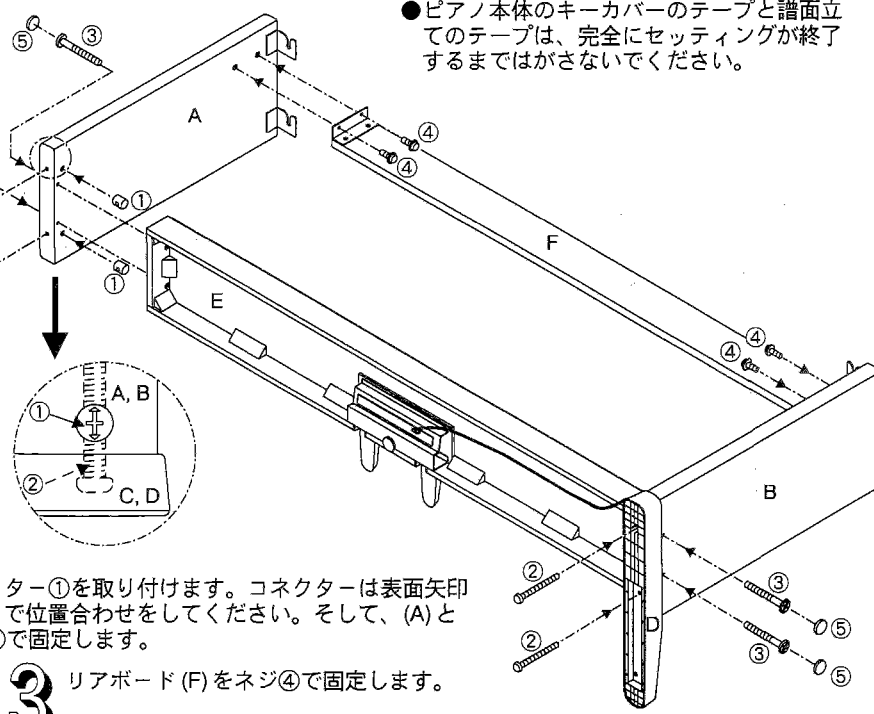
●組み立てには、+(プラス)のドライバーが必要です。ご用意ください。

●箱を開けたら、各部品が揃っているか確認してください。

●ピアノ本体のキーカバーのテープと譜面立てのテープは、完全にセッティングが終了するまではがさないでください。

- A. サイドボード(右).....1
- B. サイドボード(左).....1
- C. スタンドベース(右).....1
- D. スタンドベース(左).....1
- E. ペダルケーシング.....1
- F. リアボード.....1

- ①. ジョイントコネクター...4x
- ②. 長いネジ(ゴールド).....4x
- ③. 長いネジ(ブラック).....4x
- ④. 短いネジ.....4x
- ⑤. キャップ.....4x
- ⑥. ノブボルト.....4x

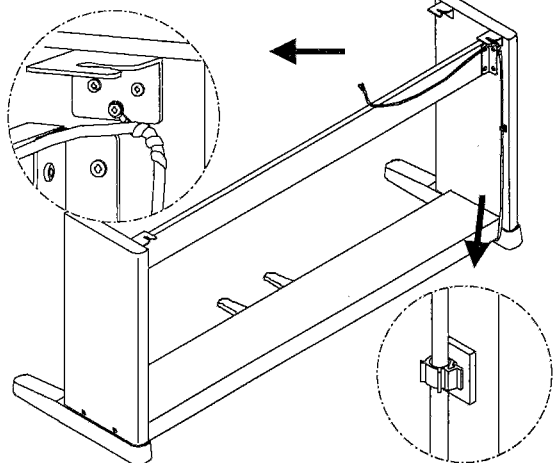


1 サイドボード(A)(B)にジョイントコネクター①を取り付けます。コネクターは表面矢印が拡大図の向きになるようにドライバーで位置合わせをしてください。そして、(A)とスタンドベース(C)、(B)と(D)をネジ②で固定します。

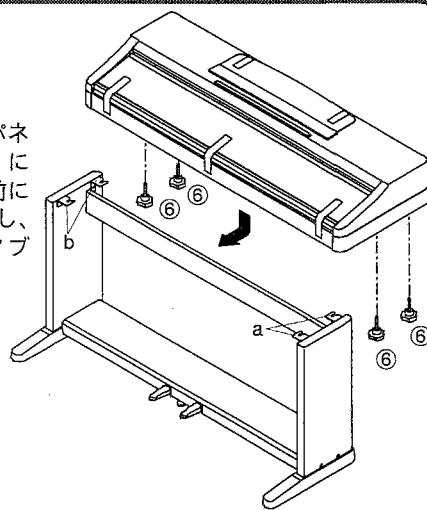
2 (A)(B)にペダルケーシング(E)をネジ③で固定します(キャップ⑤は全てのネジ止めが終了してからはめます)。

3 リアボード(F)をネジ④で固定します。

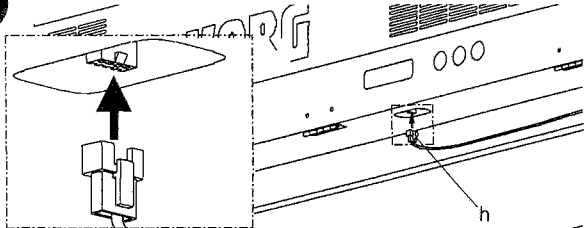
4 コードはたるまないよう、図のように止めてください。



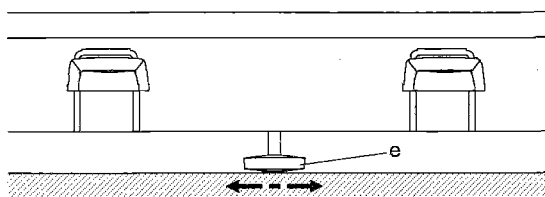
5 ピアノ本体をサイドパネル上部の金具(a, b)にあわせて後方より手前にスライドさせて固定し、金具の穴をあわせてノブボルト⑥で止めます。



6 コネクター(h)を接続します。コネクターの差し込み方向に注意してください。

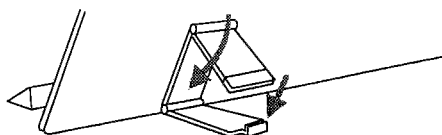


7 ペダルケーシング底部のアジャスター(e)を、床に接触するまで調節してください。きちんと調節されていないと、音がびりつくことがあります。



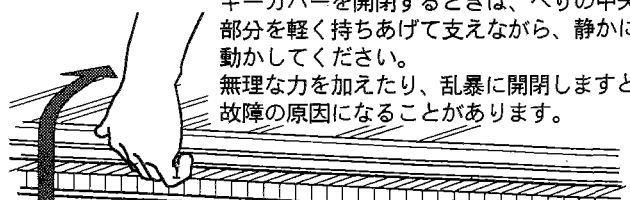
●譜面立ての立て方

譜面立てを起こしたあと、裏側に付いている2つのストッパーを起こして、倒れないように支えてください。



●キーカバーの開閉 (C-25S)

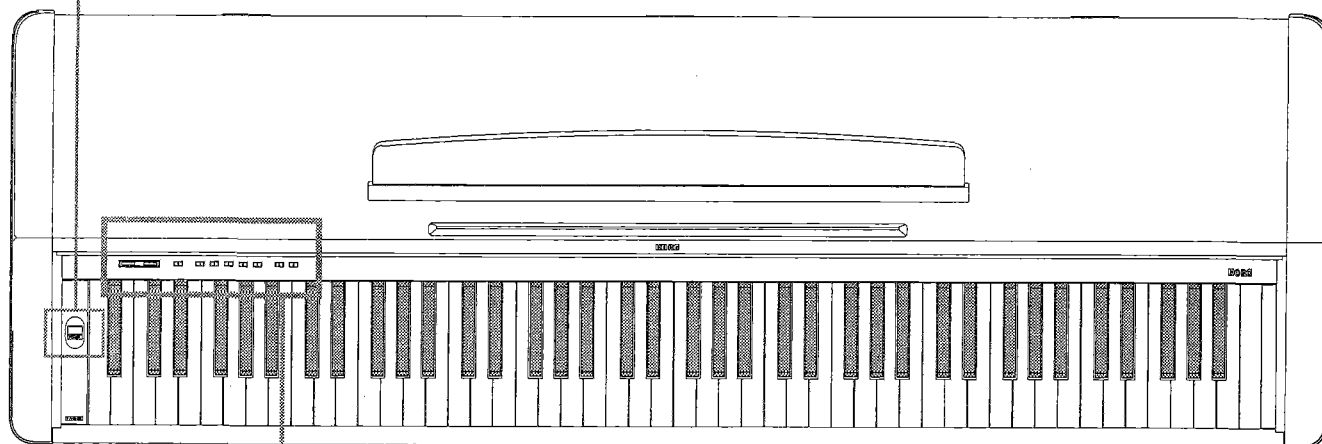
キーカバーを開閉するときは、ヘリの中央部分を軽く持ちあげて支えながら、静かに動かしてください。無理な力を加えたり、乱暴に開閉しますと、故障の原因になることがあります。



各部の名称

フロントパネル

●電源スイッチ
(☞ 5 ページ)



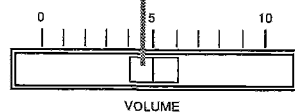
●ヘッドホン端子

ステレオ・ヘッドホンを接続する端子です。
ヘッドホンを接続しますと、本体のスピーカーからは音が出ませんので、夜間でも自由な音量で演奏をお楽しみ頂けます。

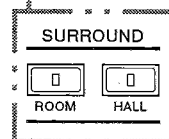
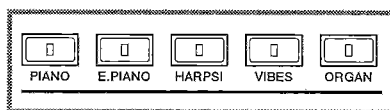
●ボリュームスライダー
(☞ 5 ページ)

●MIDI/TRANSPOSE スイッチ
(☞ 10 ページ)

●エフェクトセクター-(C-25S)
(☞ 6 ページ)

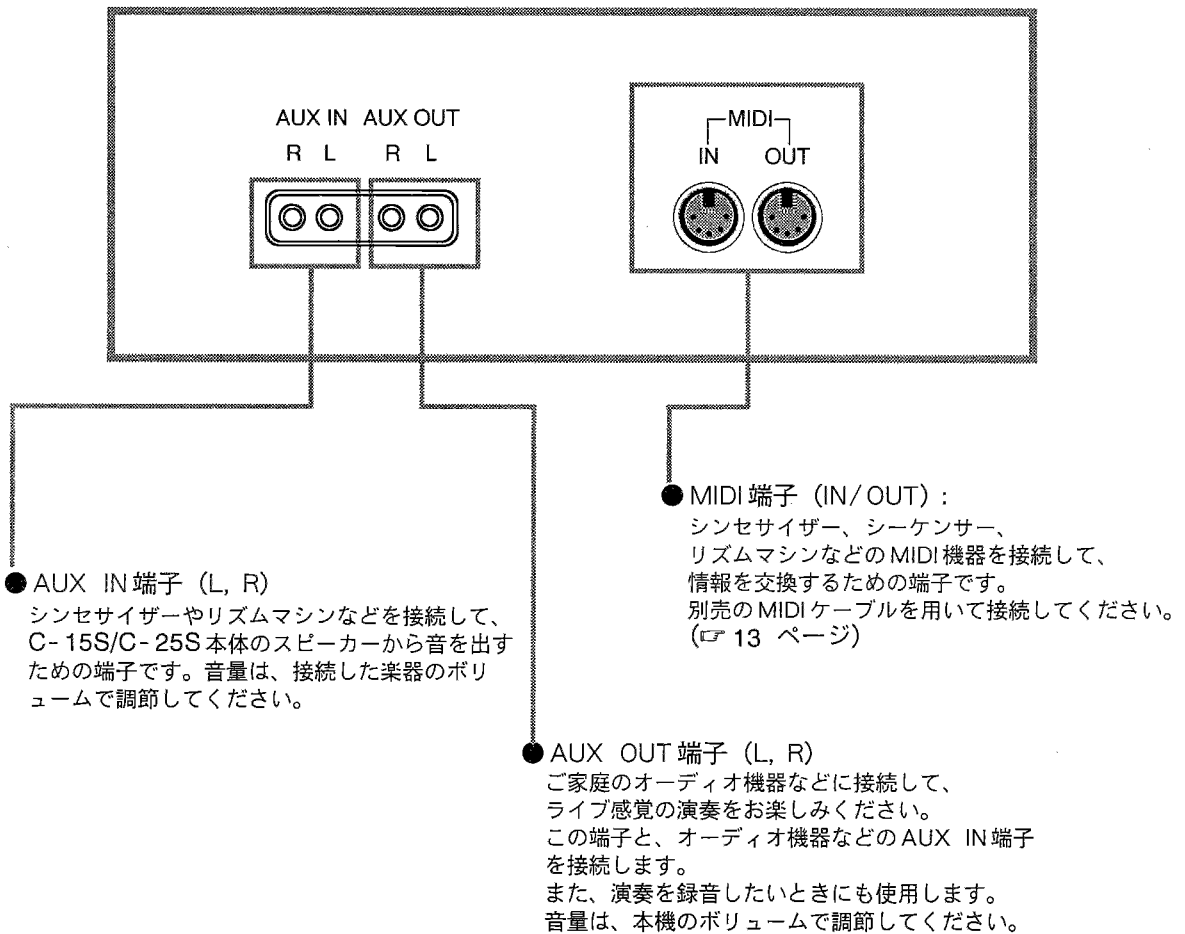
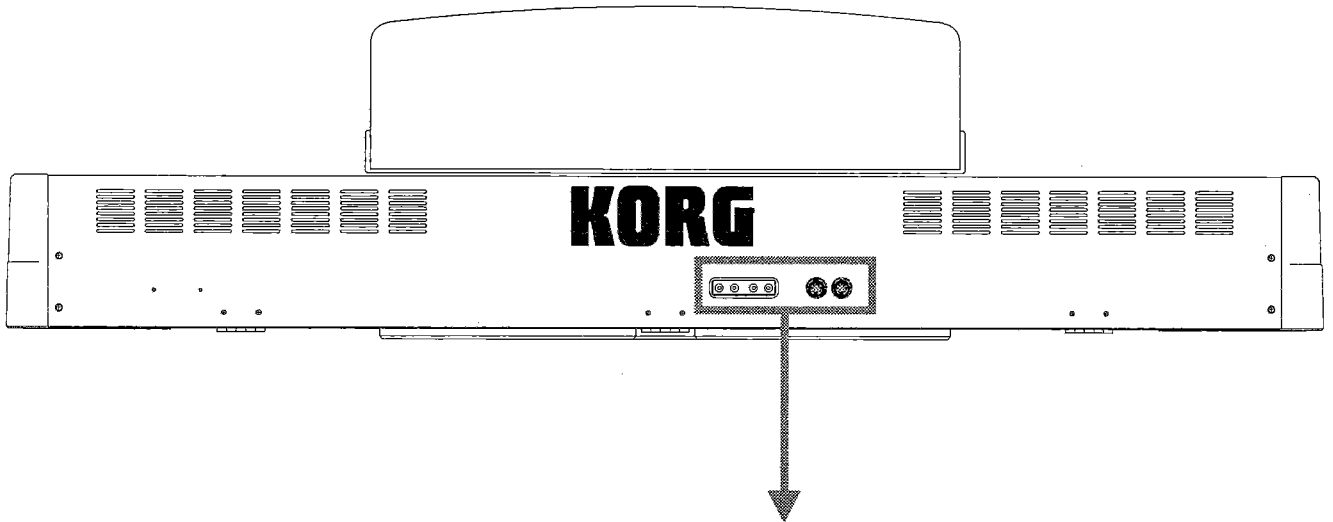


MIDI/
TRANSPOSE



●音色セクター
(☞ 6 ページ)

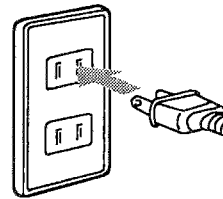
リアパネル



弾いてみましょう

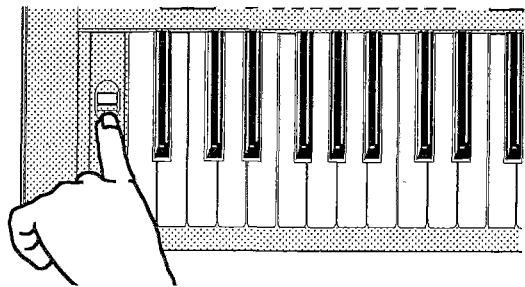
1. コンセントにプラグを差し込んでください

コンセントにAC電源コードのプラグを差し込んでください。



2. 電源スイッチを入れてください

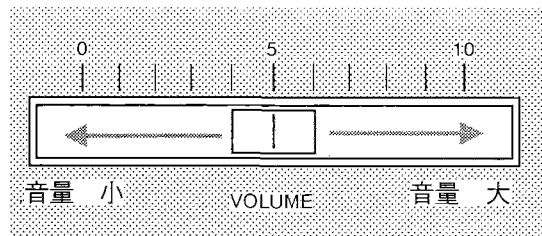
本体鍵盤左側の電源スイッチを押してください。まず初めに音色セクターPIANOのランプが点灯し、PIANOの音色が自動的に選ばれます。約2秒後に音の出る状態になります。



3. ボリュームを調整してください

ボリュームスライダーで音量を調整します。スライダーを左いっぱい(0の位置)に寄せた状態では、音が出ません。右へ移動するにしたがって音量が大きくなります。

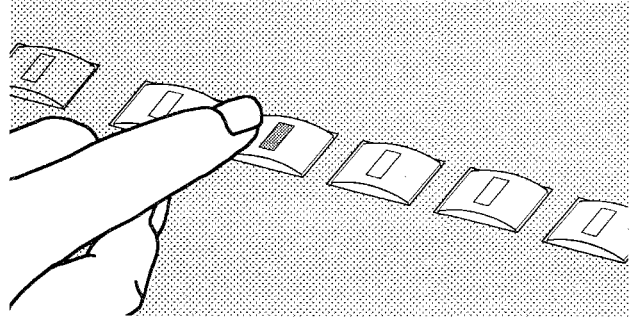
- このボリュームスライダーは、C-15S/C-25S本体のスピーカーの音量と、リアパネルのAUX OUT端子から出力される音量の両方に作用します。



音色を変えて弾いてみましょう

音色を変えたいときは、弾きたい音色の音色セレクターを押してください。

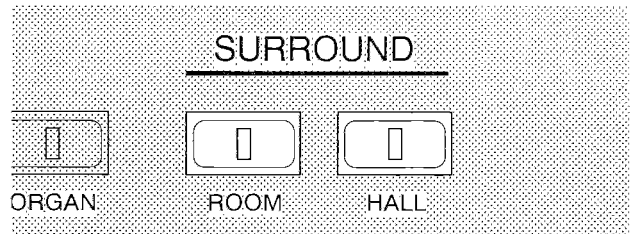
押されたセレクターのランプが点灯して、その音色が選択されたことを示します。



- PIANO(ピアノ)……………明るく華やかに響くアコースティックピアノの音色です。
- E.PIANO(エレクトリック・ピアノ)……………深く暖かみのあるエレクトリック・ピアノの音色です。
- HARPSI(ハープシコード)……………クラシックな趣きのある、リアルなハープシコードの音色です。
- VIBES(バイブ)……………まるやかなビブラフォンの音です。
- ORGAN(オルガン)……………荘厳なパイプ・オルガンの音色です。

音色にサラウンドをかけてみましょう (C-25S)

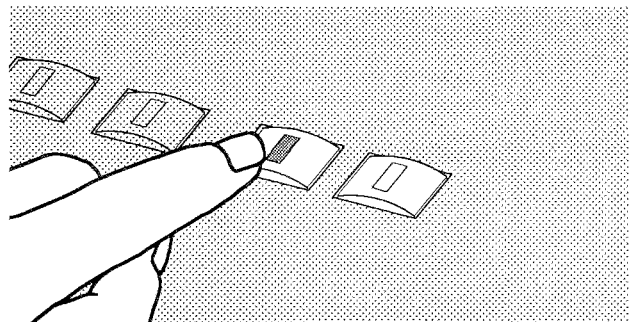
サラウンドとは、音に残響をあたえ、心地よいサウンドにする効果のことです。臨場感あふれるゴージャスな響きをお楽しみください。セレクターによって、2種類の効果が選べます。



- ROOM(ルーム)……………小さな部屋のなかで演奏したときの響きが得られます。
- HALL(ホール)……………ホールの客席で演奏を聞いているのと同じような響きが得られます。

エフェクトセレクターを押すと、押されたセレクターのランプが点灯して、そのエフェクトが選択されたことを示します。

- すでに設定されているエフェクトを解除したいときには選択されている(ランプが点灯している)エフェクトセレクターを再び押しますと、ランプが消えて、そのエフェクトのかかっていない状態に戻ります。



二つの音色を同時に出してみましょう

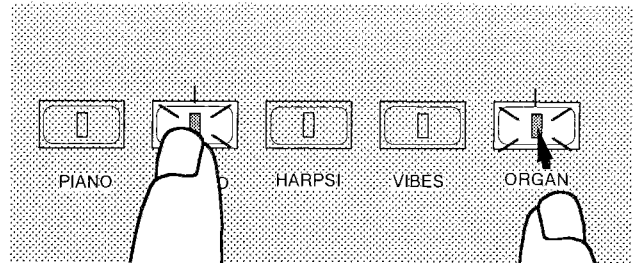
C-15S/C-25Sは一つの鍵を弾くと、同時に二つの音色を鳴らすことができます。これをレイヤー・モードといいます。このレイヤー・モードに対して、通常の、全鍵にわたって一つの音色だけで鳴る状態のことをシングル・モードと呼びます。

操作

同時に鳴らしたい2つの音色の、一方の音色の音色セレクターを押えたまま、もう一方の音色の音色セレクターを押してください。両方の音色セレクターのランプが同時に点灯して、レイヤー・モードになったことを示します。

レイヤー・モードの状態では、同じ一つの鍵から、異なる2種類の音色が重なって出てきます。同時に8音まで発音します。

音色セレクターをどれか一つだけ押しますと、そのままシングル・モードに移ります。



- シングルモードに移るとレイヤーモードは自動的に解除されます。

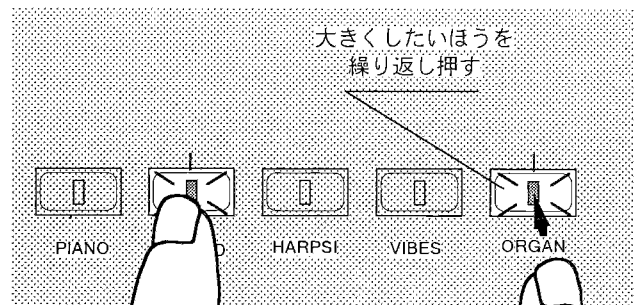
二つの音色のボリュームのバランスを変える

レイヤー・モードにおいて、選択されている2種類の音色の、音量のバランスを変えることができます。

操作

選択されている二つの音色の音色セレクター(ランプが点灯しています)のうち、音量を小さくしたいほうのセレクターを押えたまま、大きくしたいほうを繰り返し押ししてください。

繰り返し押ししているほうの音色のボリュームが、徐々に大きくなってきます。お好みのバランスになるように調節してください。

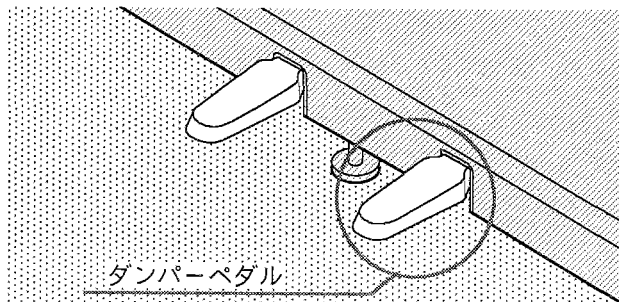


- ボリューム・バランスは、レイヤー・モードを解除すると、初期状態(同音量)に戻ります。

ペダルを試してみましょう

ダンパー効果

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。アコースティックピアノのダンパーペダルを踏んだときと同じような効果があります。

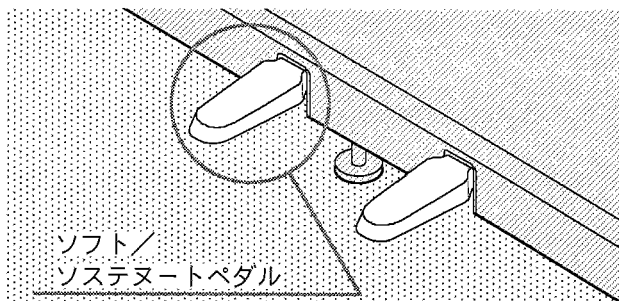


ソフト効果・ソステヌート効果

ソフト効果に設定されているときは、ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。アコースティックピアノのソフトペダルを踏んだときと同じような効果があります。

ソステヌート効果は、任意の音に対してのみ、ダンパー効果をかけることができます。ペダルを踏んだときに押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間は、その音だけが長く伸びます。

ペダルを踏んでいる間に新たに弾いた音にたいしては、ソステヌート効果はありません。

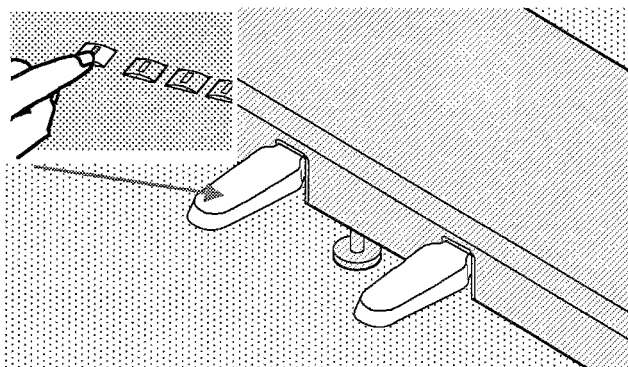


ソフト効果とソステヌート効果の切り替え

電源を入れた最初の状態では、このペダルは常にソフトペダルとして動作するようになっています。

操作

MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながらペダルを踏むと、踏むたびにソフト効果とソステヌート効果が切り替わります。

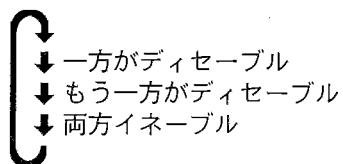
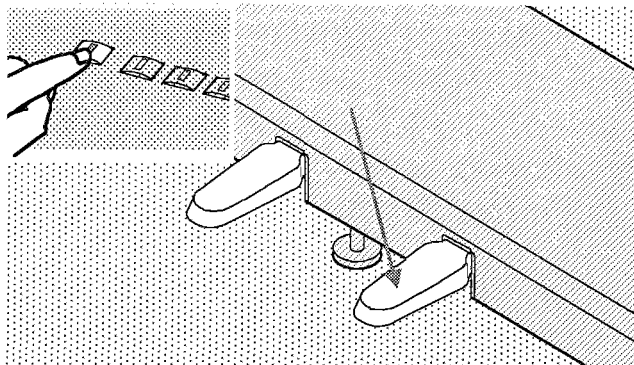


レイヤーにおけるペダルの設定

レイヤー・モードにおいては、選択されている二つの音色のうち、ペダルの効果がどちらの音色に対してかかるようにするかを、自由に設定することができます。

操作

1. MIDI/TRANPOSE スイッチを押したままダンパー・ペダルを踏むと、選択されている二つの音色セレクターのうち、ペダルの効果がかからないよう（ディセーブル）になっているほうのセレクターのランプは消えて、効果がかかるよう（イネーブル）になっているほうのセレクターのランプは点灯し続けます。
2. MIDI/TRANPOSE スイッチを押したままダンパー・ペダルを踏むたびに、ペダルの設定は

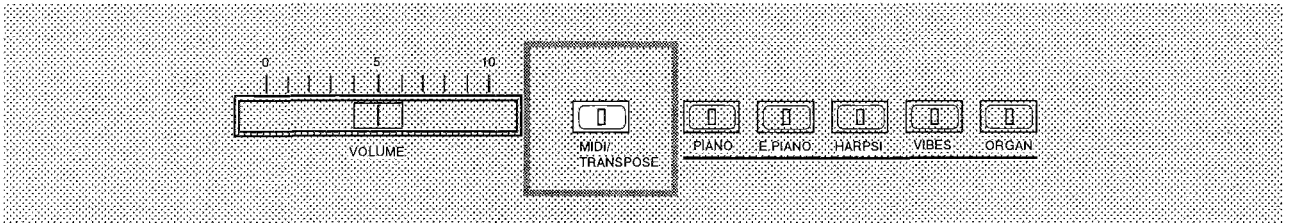


という順番で切り替わり、その状態は音色セレクターのランプで表示されます。ペダルを操作して、お好みの状態に設定しておいてください。

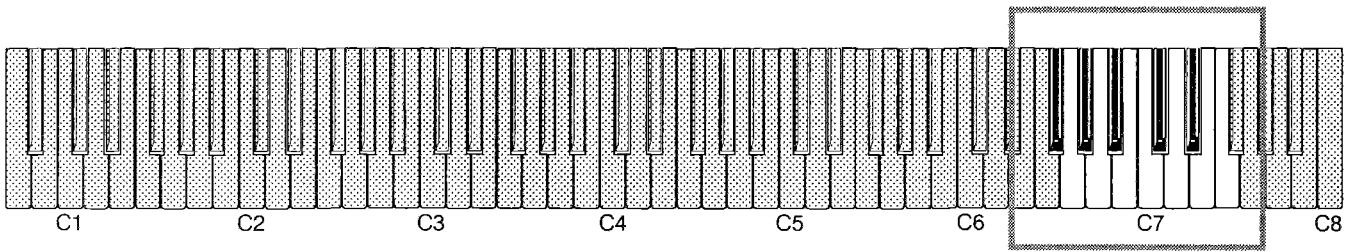
トランスポーズ機能

トランスポーズ機能とは、鍵盤を移調させる機能です。伴奏をするとき歌う人の声にあわせて移調したいときに大変便利です。上下それぞれに半オクターブまで変更することができます。

- トランスポーズの設定には、MIDI/TRANSCOPEスイッチと、鍵盤上のF#6からF7までの部分を使います。鍵盤で指定した音の高さがCとなるように、鍵盤全体の音の高さが移調されます。



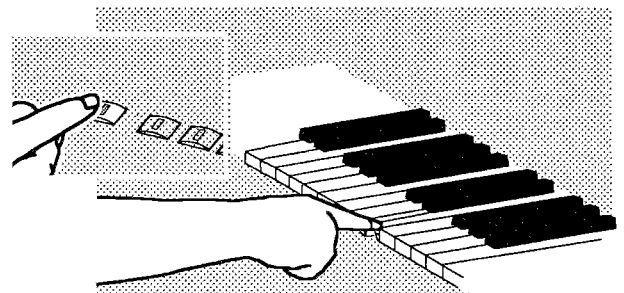
トランスポーズ設定用鍵盤 (F # 6~F7)



操作

フロントパネル上のMIDI/TRANSCOPEスイッチを押さえたままトランスポーズ設定用鍵盤を押えると、押えた鍵の音の高さがC7鍵の位置に対応するように、鍵盤全体の音の高さが移調します。

- C7以外の鍵を押えた場合には、MIDI/TRANSCOPEスイッチのランプが点灯して、トランスポーズ状態になっていることを示します。



試してみましょう 曲の調子を半音上げて演奏したいときには...

鍵盤全体の音の高さが半音だけ高くなるように、トランスポーズを設定してください。
すなわち、C7の鍵を押えたときにC#7の音が出てくるように、鍵盤全体の音の高さを移調させるわけです。

操作

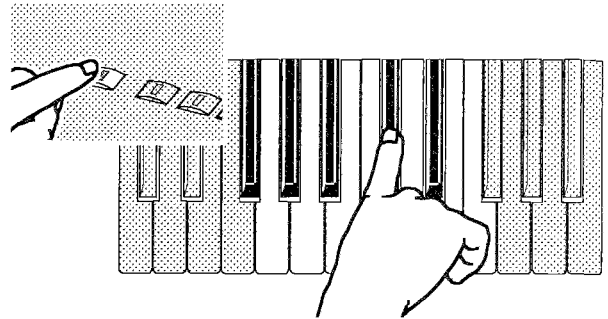
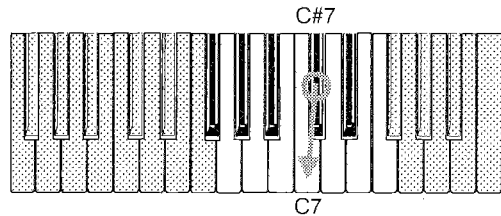
MIDI/TRANSCOPEスイッチを押しながらC#7の鍵を押えてください。

MIDI/TRANSCOPEスイッチのランプが点灯します。

そのまま鍵盤を演奏すると、出てくる音の高さは、鍵盤よりも半音だけ高くなっています。

鍵盤全体の音を半音だけ高くする

↓
C7鍵からはC#7の音が出る



試してみましょう キーがB♭の曲をGの指使いに直して弾きたいときには...

B♭の音は、Gの音からみて短3度の(半音3つ分だけ高い)音にあたります。

したがって、C7の鍵を押えたときには、C7よりも半音3つ分だけ高いD#7の音が出てくるように、鍵盤全体の音の高さを移調させればよいのです。

操作

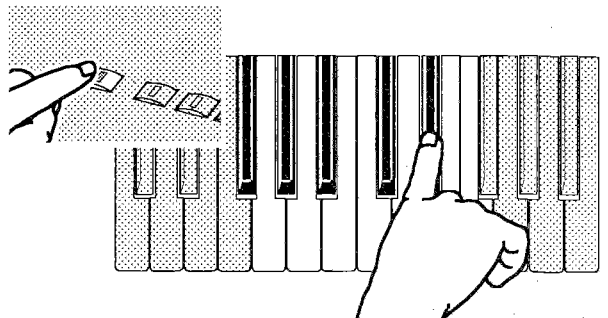
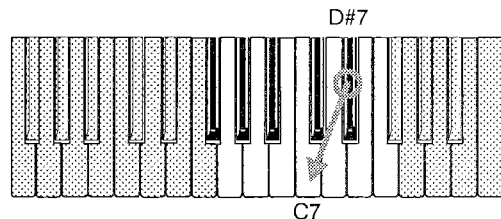
MIDI/TRANSCOPEスイッチを押しながらD#7の鍵を押えてください。

MIDI/TRANSCOPEスイッチのランプが点灯します。

そのまま鍵盤でGの調子の曲を演奏すると、出てくる音は、B♭の調子になっています。

G鍵を押えたときにB♭の音が出る

↓
C7鍵からはD#7の音が出る



設定したトランスポーズを解除したいときは...

操作

MIDI/TRANSCOPEスイッチを押して、トランスポーズ用鍵盤は押えずにそのままスイッチから手を離してください。

MIDI/TRANSCOPEスイッチのランプが消えて、鍵盤は元の調に戻ります。

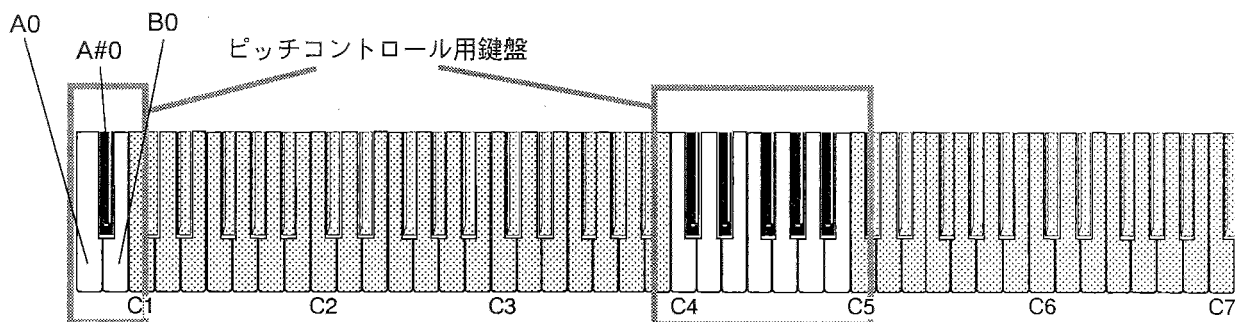
- トランスポーズの設定は、本体の電源を切ると自動的に解除されます。

ピッチコントロール

ピッチコントロールとは、ピッチ(音程)の微調整を行なう機能です。他の楽器とチューニングをあわせてアンサンブルを楽しむ時に便利です。

±50セント(1セントは半音の100分の1)まで変更することができます。変更したチューニングは、本体の電源を切ると自動的に元に戻ります。

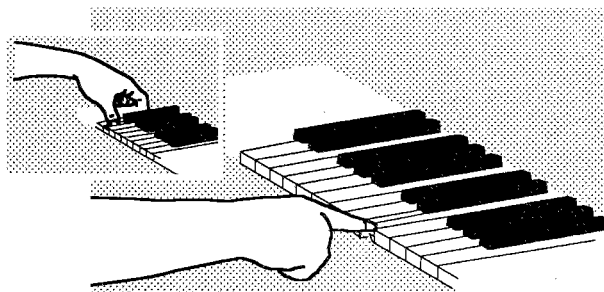
- ピッチの設定には、鍵盤上のA0、A#0、B0の部分と、C4からB4までの部分を使います。



操作 ピッチを高くしたいときには...

A0とB0の鍵を押えながら、C4からB4までの間の、いずれか一つの鍵盤を押えてください。

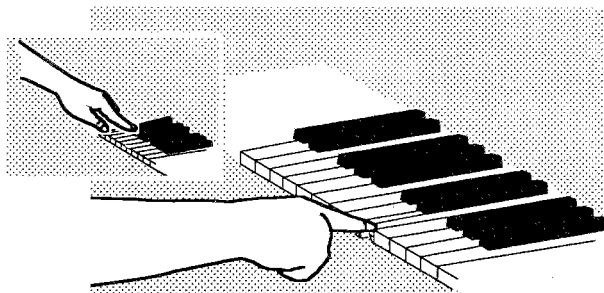
- いずれの鍵でも、一回押えるたびに約1セントずつピッチが高くなります。好みのピッチになるまで繰り返し押してください。



操作 ピッチを低くしたいときには...

A0とA#0の鍵を押えながら、C4からB4までの間の、いずれか一つの鍵盤を押えてください。

- いずれの鍵でも、一回押えるたびに約1セントずつピッチが低くなります。好みのピッチになるまで繰り返し押してください。

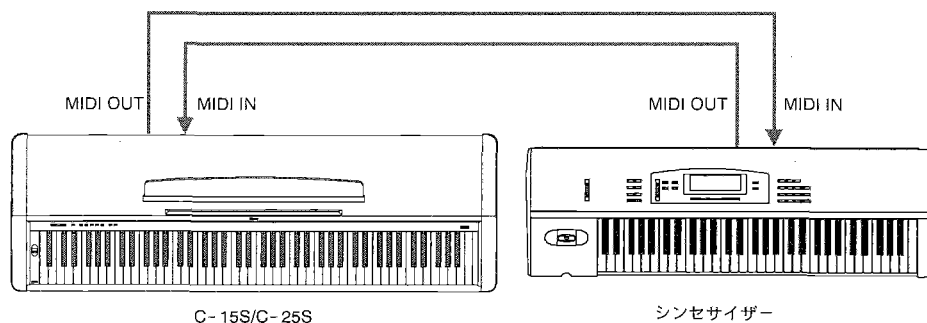


MIDI を使って

C-15S/C-25Sのリアパネルには、MIDI IN、MIDI OUT という2つの端子が付いています。MIDI(ミディ)とは、ミュージカル インスツルメント デジタル インターフェイス MUSICAL INSTRUMENT DIGITAL INTERFACEの略で、あらゆる種類の電子音楽機器をデジタル信号で結ぶことのできる世界共通の規格です。この規格を持っているMIDI機器を複数つないで、演奏データをやり取りすることによって、何台ものキーボードを同時に演奏したり、コンピューターを接続して自動演奏をすることができます。

例えば、C-15S/C-25SにMIDIシーケンサー(自動演奏装置)を接続して、自動演奏を楽しんだり、テープレコーダーに録音するように自分の演奏を記録して再生することができます。また、シンセサイザーを接続すれば、C-15S/C-25Sの鍵盤で、同時にシンセサイザーを演奏することもでき、ピアノとシンセサイザーのアンサンブルを楽しむ、といった使い方もできます。

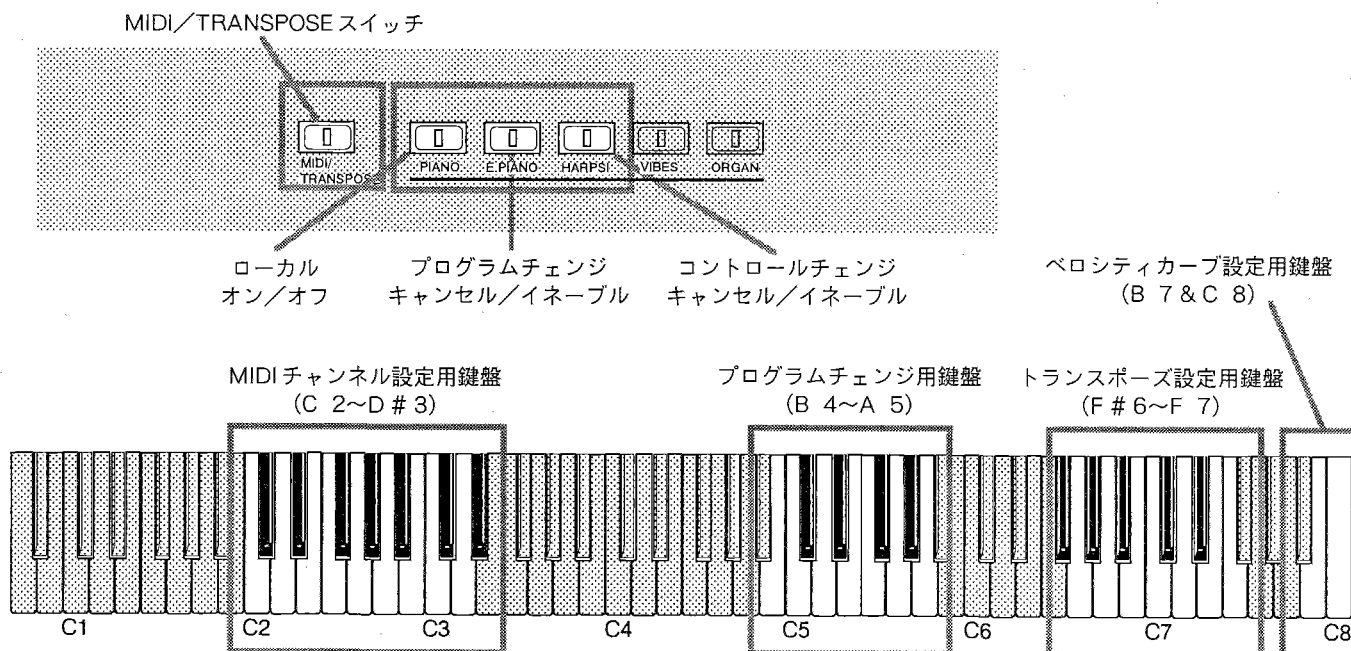
C-15S/C-25SのリアパネルにはMIDI IN、MIDI OUT という2つの端子が付いています。OUTはC-15S/C-25SからのMIDI情報を送り出し、INは他のMIDI情報を受け取ります。



この説明書では、これらの機器にC-15S/C-25Sを接続して楽しんでいただくための、基本的な設定方法が示してあります。このようなMIDIの活用法について、さらに興味のある方は、シンセサイザーやシーケンサーなどの、MIDI機器の取扱説明書をごらんください。

MIDI モードの設定

MIDI/TRANPOSEスイッチを押しますと、音色セレクターのスイッチや鍵盤が、下のような機能にかかります。これらを利用して、MIDIに関するモードの設定を行います。



MIDIモードの初期設定

電源を入れた直後は、MIDIに関するモードは、自動的に右のように設定されます。

MIDIチャンネル	...1
ローカル・オン/オフ	... オン
プログラムチェンジキャンセル	... イネーブル
コントロールチェンジキャンセル	... イネーブル

1. MIDIチャンネルの設定

MIDIの演奏データを送受信するときは、必ずチャンネル指定をするようになっていきます。これは、データを受信する側で、チャンネルを切り替えることによって、必要な演奏情報だけを受け取って演奏させるためです。1~16チャンネルまで設定することができます。

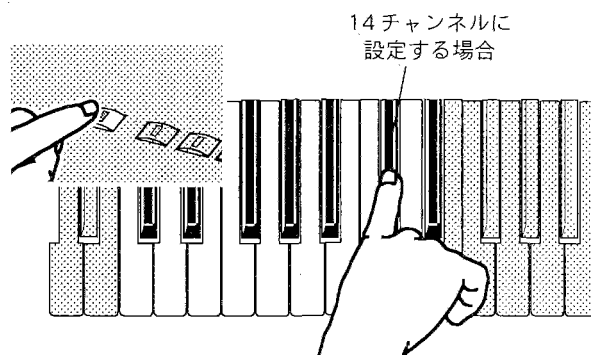
MIDIチャンネル



操作

MIDI/TRANSPOSEスイッチを押しながら、MIDIチャンネル設定用の鍵盤のなかから、設定したいチャンネル番号に対応した鍵を押します。

- 電源を入れた直後は、自動的にチャンネル1に設定されます。



この場合、送信チャンネルは14となり受信の際は(P18 マルチ参照)14~16チャンネルとなります。

2. ローカル・オン/オフ

C-15S/C-25SにシンセサイザーなどのMIDI機器を接続して、C-15S/C-25Sの鍵盤を弾いたときに、C-15S/C-25S本体からは音を出さず、接続した機器だけがC-15S/C-25Sで弾いたとおりに鳴るようにすることができます。

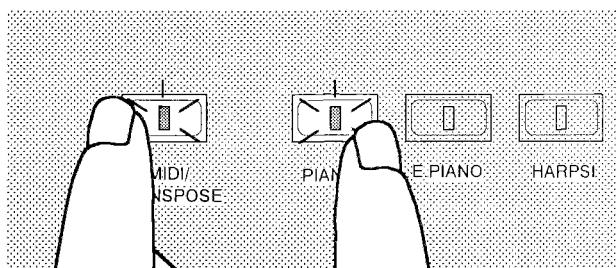
- 電源を入れた直後は、自動的にローカル・オンに設定されています。この状態では、C-15S/C-25Sの音が普通に鳴ります。
- ローカル・オフに設定すると、鍵盤を弾いてもC-15S/C-25S本体からは音が出ず、接続されているMIDI機器だけが鳴るようになります。

操作

MIDI/TRANSPOSEスイッチを押しながら、PIANOの音色セクターを押すたびに、ローカル・オン/オフが切り替わります。

ローカル・オンの状態 (音色セクターのランプ
↑ ↓ が消えます)

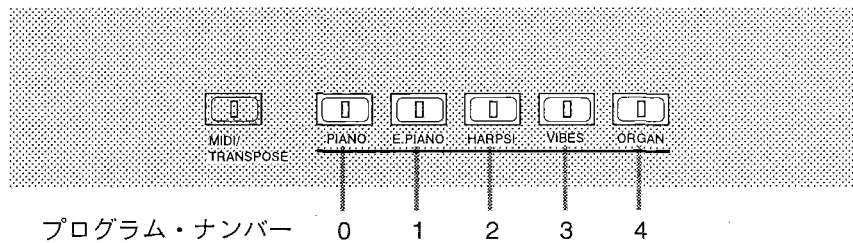
ローカル・オフの状態 (音色セクターのランプ
が点灯します)



3. プログラム・チェンジ

プログラム・チェンジとは、MIDI機器の音色を切り替える情報を送信したり、受信したりする機能のことです。

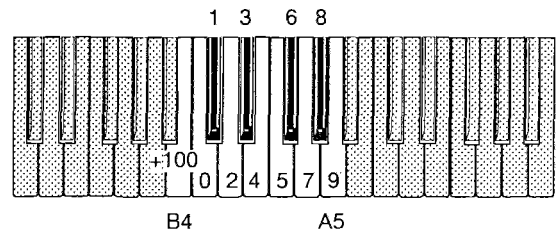
- C-15S/C-25Sの音色セレクターを押して音色を選択すると、下のように、音色セレクターに対応した0から4までのMIDIのプログラムナンバーが、C-15S/C-25Sに接続されているMIDI機器に送信されます。



鍵盤を使ってプログラムナンバーを送信する

シンセサイザーなどでは、一般に音色が6以上内蔵されていることがあります。そのような電子楽器にプログラムチェンジを送信するには、鍵盤を音色セレクターに見立てて行います。

MIDIプログラムナンバー



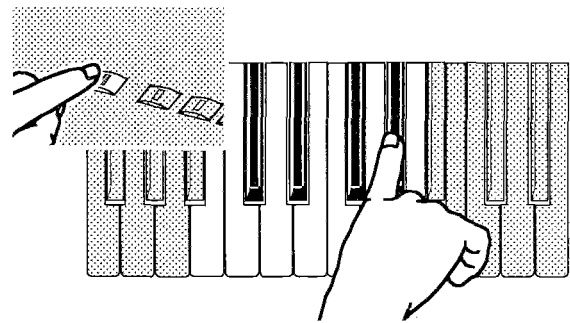
操作

1. プログラムナンバー0から99までは、2桁の数字として扱います。

MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら、

プログラムナンバー0なら、	0	0
プログラムナンバー1なら、	0	1
⋮	⋮	
プログラムナンバー99なら、	9	9

という順序で、鍵盤を押します。



2. プログラムナンバーが100以上のときは、まず **+100** を押してから、下2桁の数字を押します。

MIDI/TRANPOSE スイッチを押しながら、

ナンバー100なら、	+100	0	0
ナンバー101なら、	+100	0	1
⋮	⋮		
ナンバー127なら、	+100	2	7

という順序で、鍵盤を押します。

- 鍵盤を使ってプログラム・チェンジを行う場合、プログラムナンバーは、プログラム・チェンジ・キャンセルのオン/オフに関係なく送信されます。くわしくは、**プログラム・チェンジ・キャンセル**をごらんください。

レイヤー・モードでのプログラム・チェンジ

レイヤー・モードで C-15S/C-25S の音色を変更したときは、2つ押した音色セレクターのうち、後から押したほうの音色セレクターに対応するプログラムナンバーが、外部の MIDI 機器に送信されます。くわしくは、7 ページ『レイヤー・モード』をごらんください。

プログラム・チェンジ・キャンセル

プログラム・チェンジの情報を、送信・受信したくないときは、プログラム・チェンジをキャンセルに設定してください。

操作

MIDI/TRANSPOSE スイッチを押しながら、E.PIANO の音色セレクターを押すたびに、キャンセル/イネーブルが切り替わります。

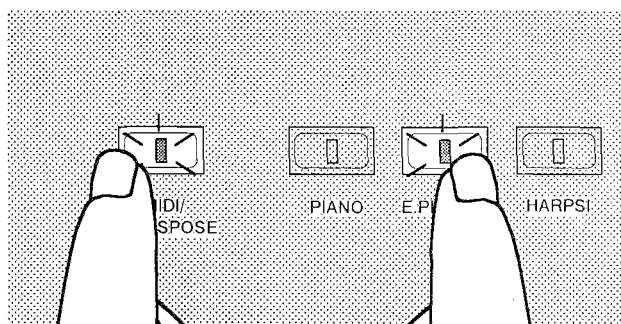
キャンセルの状態…… (音色セレクターのランプが点灯します)



イネーブルの状態…… (音色セレクターのランプが消えます)

また、C-15S/C-25S がレイヤー・モードのときに、外部からプログラム・チェンジが送られてくると、C-15S/C-25S の2つ選択されている音色のうち、音色セレクター上で左側に配置されているほうの音色が、受信したプログラムナンバーにしたがって切り替わります。

- C-15S/C-25S の音色数を超えるプログラムナンバーを受信しても、C-15S/C-25S の音色は切り替わりません。
- 電源を入れた直後は、自動的にイネーブルに設定されます。この状態では、C-15S/C-25S のプログラム・チェンジを、接続した他の MIDI 機器へ送信したり、他の MIDI 機器からプログラム・チェンジを受信して、音色を切り替えることができます。



4. コントロール・チェンジ

コントロール・チェンジとは、ダンパーペダル、ソフトペダル、ソステヌートペダルなどのコントロール情報を指します。この情報を送信・受信したくないときは、コントロール・チェンジをキャンセルに設定してください。

- 電源を入れた直後は、自動的にイネーブルに設定されます。この状態では、C-15S/C-25S のダンパーペダルやソフトペダルで接続した他の MIDI 機器をコントロールしたり、他の MIDI 機器からコントロール・チェンジを受信して C-15S/C-25S のダンパーを操作することなどができます。

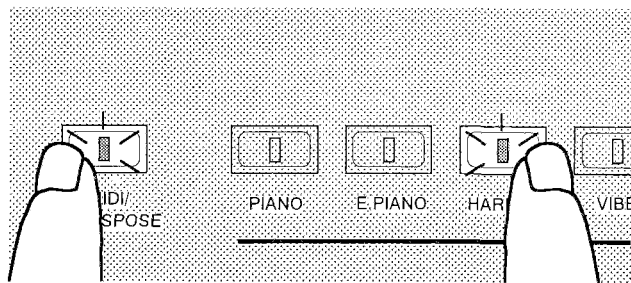
操作

MIDI/TRANSCOPE スイッチを押しながら、HARPSIの音色セクターを押すたびに、キャンセル/イネーブルが切り替わります。

キャンセルの状態…… (音色セクターのランプ
↑ ↓ が点灯します)

イネーブルの状態…… (音色セクターのランプ
が消えます)

- コントロール・チェンジのキャンセル/イネーブルを設定するときは、ペダルを踏まない状態で設定を行ってください。



注意

外部からのコントロール・チェンジは、本体のペダルの設定の変更 ([レイヤーにおけるペダルの設定](#)参照) に関係なく、レイヤー・モードにおいても、常に両方の音色にたいして有効となります。

5. ベロシティ・カーブ・セレクト

ベロシティとは、鍵盤を叩くときの強さ(速さ)のことです。C-15S/C-25Sでは、ベロシティに対する音量や音色の変化のしかた(ベロシティ・カーブ)が、ピアノの演奏に適したものとなっています。

C-15S/C-25Sを他のシンセサイザーにMIDI接続して、C-15S/C-25Sの鍵盤でシンセサイザーを演奏するような場合、音量や音色の変化のしかたが不自然になることがあります。

このような場合、C-15S/C-25Sのベロシティ・カーブを、シンセサイザーの演奏に適したカーブに設定し直すことができます。

操作

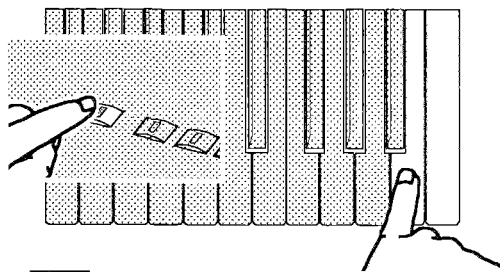
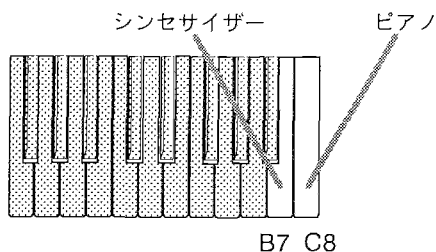
MIDI/TRANSCOPE スイッチを押しながら、ベロシティ・カーブ設定用の鍵盤を押します。

B7 鍵を押したとき ... シンセサイザーに適したカーブ

C8 鍵を押したとき ... ピアノに適したカーブ

- 電源を入れた直後は、ピアノに適したベロシティ・カーブが自動的に設定されています。

ベロシティ・カーブ設定用鍵盤



注意

ベロシティ・カーブ・セレクトは、MIDIで接続された外部の音源に対してのみ機能します。C-15S/C-25S本体の音はベロシティ・カーブ・セレクトの設定にかかわらず、常にピアノに適した設定となっています。

MIDI マルチ機能を活用しましょう

C-15S/C-25Sでは、同時に二種類の音色を鍵盤上で演奏することができます(2つの音色を同時に出してみましよう参照)が、外部MIDI機器を接続して、外部からコントロールすることによって、もっと多くの音色を一度に鳴らすことができます。同時受信チャンネル数はパネル上の設定音と音色数をたした6つです。

- 電源を入れた後の受信チャンネルと音色の関係は以下ようになります。

チャンネル	1	2	3	4	5	6
音色	パネル上の設定	PIANO	E.PIANO	HARPSI	VIBES	ORGAN

- MIDIチャンネルの設定により(1.MIDIチャンネルの設定参照)、音色に対応する受信チャンネルの変更ができます。その場合、設定したチャンネルから、大きいチャンネルナンバーへと順番に音色が対応します。

MIDIチャンネルを3に設定した場合

チャンネル	3	4	5	6	7	8
音色	パネル上の設定	PIANO	E.PIANO	HARPSI	VIBES	ORGAN

MIDIチャンネルを14に設定した場合

チャンネル	14	15	16			
音色	パネル上の設定	PIANO	E.PIANO			

- 設定チャンネルが16チャンネルの場合、パネル上の音色が16チャンネルで発音し、それ以外のチャンネルでは発音しないことになります。

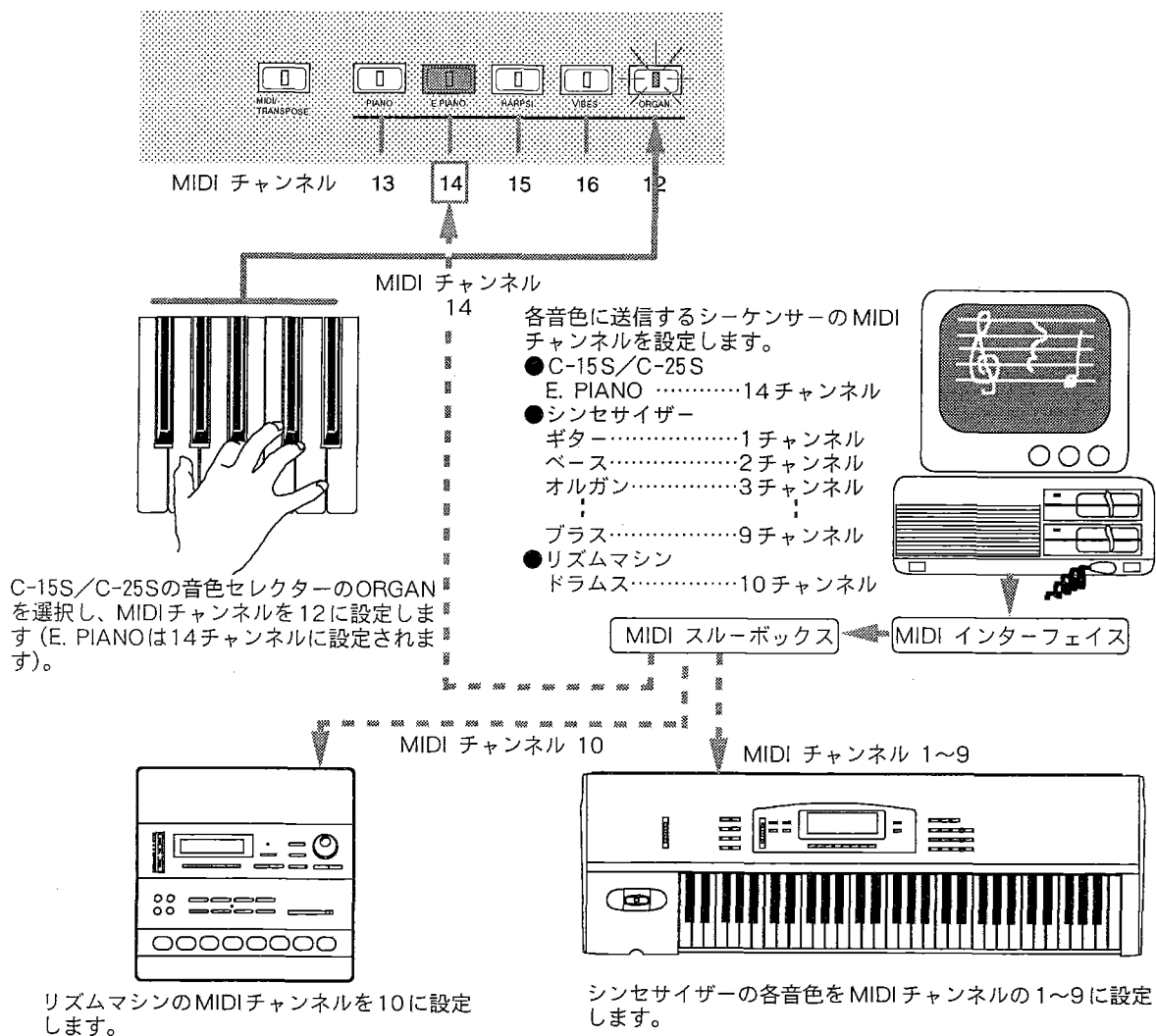
MIDIチャンネルを16に設定した場合

チャンネル	16					
音色	パネル上の設定					

MIDI マルチの例

異なった複数のチャンネルの演奏データを同時に送信できるタイプのシーケンサー(自動演奏装置)を接続して、C-15S/C-25Sと複数の外部MIDI機器を自動演奏させます。このような複数の音色を自動演奏させる場合に、C-15S/C-25Sの音色に対応するMIDIチャンネルを変更することによって他の機器のチャンネル設定が容易となります。

図は、マルチティンバー(ティンバーごとにMIDIチャンネルを設定できる)機能を持つシンセサイザー、リズムマシンとC-15S/C-25SのE.PIANOの音色を自動演奏させて、その演奏に合わせてORGANの音色で鍵盤を演奏するための設定です。シーケンサーの各音色の送信チャンネルと、各MIDI機器の受信チャンネルを図のように設定します。



- それぞれのチャンネルの音色は、プログラムチェンジで変更することが可能です。
- 音色や、演奏データだけでなく、ペダルなどのコントロールチェンジの情報がチャンネルごとに独立して受信することができます。
- C-15S/C-25Sは、鍵盤で演奏される音の数と、外部からのコントロールによって演奏される音の数とを合わせて16音まで同時に発音することができます。異なる音色が同時にできるように設定されているときは音色の種類に関係なく合計16音までが同時に発音します。

MIDI インプリメンテーション

1. TRANSMITTED DATA

1-1 CHANNEL MESSAGES

Status	Second	Third	Description	ENA
1000 nnnn	0kkk kkkk	0100 0000	Note Off kkk kkkk=15-113	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Note On kkk kkkk=15-113 vvv vvvv=1-127	A
1011 nnnn	0100 0000	0000 0000	Damper Off(Damper Pedal)	C
1011 nnnn	0100 0000	0111 1111	Damper On(Damper Pedal)	C
1011 nnnn	0101 0010	0000 0000	Sostenuto Off(Sostenuto Pedal)	C
1011 nnnn	0101 0010	0111 1111	Sostenuto On(Sostenuto Pedal)	C
1011 nnnn	0101 0011	0000 0000	Soft Off(Soft Pedal)	C
1011 nnnn	0101 0011	0111 1111	Soft On(Soft Pedal)	C
1100 nnnn	0ppp pppp	---- ----	Program Change ppp pppp=0-127	P

nnnn : MIDI Channel No.(0-15)Usually Global Channel.

ENA=A : Always Enabled

C : Enabled when Control Filter is ENA

P : Enabled when Program Filter is ENA

1-2 SYSTEM REALTIME MESSAGES

Status	Description
1111 1110	Active Sensing

2. RECOGNIZED RECEIVE DATA

2-1 CHANNEL MESSAGES

Status	Second	Third	Description	ENA
1000 nnnn	0kkk kkkk	0xxx xxxx	Note Off	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0000 0000	Note Off	A
1001 nnnn	0kkk kkkk	0vvv vvvv	Note On	A
			vvv vvvv=1-127	
1011 nnnn	0100 0000	00xx xxxx	Damper Off	C
1011 nnnn	0100 0000	01xx xxxx	Damper On	C
1011 nnnn	0100 0010	00xx xxxx	Sostenuto Off	C
1011 nnnn	0100 0010	01xx xxxx	Sostenuto On	C
1011 nnnn	0100 0011	00xx xxxx	Soft Off	C
1011 nnnn	0100 0011	01xx xxxx	Soft On	C
1011 nnnn	0111 1010	0000 0000	Local Control Off	A
1011 nnnn	0111 1010	0111 1111	Local Control On	A
1011 nnnn	0111 1011	0000 0000	All Notes Off	A
1011 nnnn	0111 110x	0000 0000	(All Notes Off)	A
1011 nnnn	0111 1110	000m mmmm	(All Notes Off)	A
			m mmmm=0-16	
1011 nnnn	0111 1111	0000 0000	(All Notes Off)	A
1100 nnnn	0000 0ppp	---- ----	Program Change ppp=0-4	P

x : Random

ENA Same as TRANSMITTED DATA

2-2 SYSTEM REALTIME MESSAGES

Status	Description
1111 1110	Active sensing

C-15S/C-25S MIDI インプリメンテーションチャート

ファンクション	送信	受信	備考
ベーシック 電源ON時 チャンネル 設定可能	1 1-16	1-16	
モード 電源ON時 メッセージ 代用	× × *****	3 ×	
ノート ナンバー: 音域	15-113 *****	0-127 21-108	
ベロシティ ノート・オン ノート・オフ	1-127 ×	1-127 ×	
アフター キー別 タッチ チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー	×	×	
コントロール 64 ○ 66 ○ チェンジ 67 ○		○ ○ ○	ダンパー・ペダル *1 ソステヌート・ペダル *1 ソフト・ペダル *1
プログラム チェンジ: 設定可能範囲	0-127 *****	0-4 0-4	*2
エクスクルーシブ	×	×	
: ソング・ポジション コモン: ソング・セレクト : チューン	× × ×	× × ×	
リアル: クロック タイム: コマンド	× ×	× ×	
: ローカルON/OFF その他: オール・ノート・オフ : アクティブ・センシング : リセット	× × ○ ×	○ ○ 123-127 ○ ×	
備考 *1 コントロール・チェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。 *2 プログラム・チェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。 鍵盤を使ったプログラム・チェンジは、イネーブル/キャンセルにかかわらず送信される。(P.15 参照)			

モード 1: オムニ・オン、ポリ
モード 3: オムニ・オフ、ポリ

モード 2: オムニ・オン、モノ
モード 4: オムニ・オフ、モノ

○: あり
×: なし

故障とお思いになる前に

故障かなと思ったときは、下記の事柄を確認してください。

それでも症状が改善されない場合は、お近くの販売店、またはコルグ・サービスセンターまでお問い合わせください。

電源が入らない



電源コードがプラグにしっかり入っていますか？

音が出ない



- ①ボリュームが0になっていませんか？
- ②MIDIモードでローカルオフになっていませんか？
- ③ヘッドホンのプラグを差し込んだ状態にしていませんか？

仕 様

■鍵盤	88鍵 (A0~C8)		
■音色	5音色：ピアノ、エレクトリックピアノ、ハーブシコード、パイプ、オルガン		
■同時発音数	16		
■効果	サラウンド(ルーム、ホール)(C-25Sのみ)		
■キーボードモード	シングル、レイヤー (MIDI マルチ)		
■コントロール	ボリューム、パワースイッチ、キートランスポーズ、ピッチコントロール		
■ペダル	ダンパー、ソフト/ソステヌート		
■接続端子	ヘッドホン、AUX イン (L, R)、AUX アウト (L, R)、MIDI イン・アウト		
■メインアンプ	30W × 2	■外装仕上げ	ブラックウォルナット
■スピーカー	16cm × 2	■外形寸法	1382(W) × 456.5(D) × 815(H)mm
■定格電源	AC100V 50Hz/60Hz	■重量	45.6kg(C-15S) 48.2kg(C-25S)
■消費電力	45W	■付属品	譜面立て、キーカバー (C-15Sのみ)

アフターサービス

■製品をお買い上げいただいた日より一年間は保証期間です。万一保証期間内に、製造上の不備による故障が生じた場合は無償修理いたしますので、お買い上げの販売店に保証書を提示して修理をご依頼ください。ただし次の場合の修理は有償となります。

- ①消耗部品(電池など)を交換する場合。
- ②輸送時の落下、衝撃などお客様の取扱方法が不適当のため生じた故障。
- ③天災(火災等)によって生じた故障。
- ④故障の原因が本製品以外の他の機種にある場合。
- ⑤コルグサービスステーション及び、コルグ指定者以外の手で修理、改造された部分の処理が不適当であった場合。
- ⑥保証書に販売店名、お客様氏名、ご住所、お買い上げ日等が記入されていない場合。
- ⑦保証期間が切れている場合。
- ⑧日本国外で使用される場合。

■当社が修理した部分が再度故障した場合は、保証期間外であっても3カ月以内に限り無償修理となります。また仕様変更に関しては有償になります。

■お客様が保証期間中に移転された場合でも保証書は引き続きお使いいただけます。移転先のコルグ製品取扱店、またはコルグインフォメーションセンターまでお問い合わせください。

■保証期間が過ぎますと修理は有料になりますが、引き続き、製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品(電子回路など)は通常8年間に基準に保有しております。ただし外装部品(パネルなど)の修理は類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。

■他にアフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

▼▲▼▲▼▲▼ 株式会社コルグ ▼▲▼▲▼▲▼

インフォメーションセンター	〒160 東京都新宿区西新宿7-2-5 新宿第一富士ビルB1F	☎ (03)3363-5995
東京営業所	〒168 東京都杉並区下高井戸1-11-17	☎ (03)3323-5241
横浜営業所	〒220 横浜市西区北幸2-10-42 寺内ビル2F	☎ (045)324-7776
北関東営業所	〒331 大宮市桜木町4-929-2	☎ (048)644-6800
大阪営業所	〒531 大阪市北区豊崎3-2-1 淀川5番館7F	☎ (06)374-0691
名古屋営業所	〒466 名古屋市昭和区八事本町100-51	☎ (052)832-1419
福岡営業所	〒810 福岡市中央区白金1-3-25 第2池田ビル1F	☎ (092)531-0166

■修理等のお問い合わせは最寄りの各営業所、または下記までご連絡ください。

営業技術課 〒157 東京都世田谷区南島山4-28-20 ☎ (03)3309-7001

<WARNING!>

This Product is only suitable for sale in Japan. Property qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

☆この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です。

KORG
株式会社コルグ

■本社: 〒168 東京都杉並区下高井戸1-15-12 ☎(03)3325-5691(代) ■インフォメーションセンター: 〒160 東京都新宿区西新宿7-2-5第一フレア81 ☎(03)3363-5995
■東京営業所: 〒168 東京都杉並区下高井戸1-11-17 ☎(03)3323-5241 ■横浜営業所: 〒220 横浜市西区北幸2-10-42 ☎(045)324-7776(代)
■北関東営業所: 〒331 大宮市桜木町4-929-2 ☎(048)644-6800(代) ■大阪営業所: 〒531 大阪市北区豊崎3-2-1淀川5番館7F ☎(06)374-0691(代) ■名古屋営業所/ショップ/スタジオ: 〒466 名古屋市昭和区八事本町100-51 ☎(052)832-1419(代) ■福岡営業所: 〒810 福岡市中央区白金1-3-25第2池田E11F ☎(092)531-0166(代)